

本校生徒考案おせち“光り輝く君へ” 児童養護施設へ寄贈

新年あけましておめでとうございます。健やかな新たな年をお迎えのことと存じます。

本校生徒考案おせち“光輝く君へ”は、皆様のおかげを持ちまして、250個を予約完売して、児童養護施設の子どもたちに10個プレゼントすることができました。子どもたちは、目をキラキラさせて新年への抱負を語ってくれていました。ご協力に心より感謝申し上げます。この様子は2024年12月31日付け、下野新聞第3面(社会面)に掲載されました。

本校生徒たちは、2026年も、更にグレードアップしたおせちを考案して、皆様の新年の食卓に潤いをお届けしたいと意気込んでいます。

【下野新聞 2024年12月31日付掲載】

宇短付高生考案 おせち料理贈る

宇都宮の養護施設に

宇都宮短大付属高と旅行会社の東武トップアーク宇都宮支店は30日、宇都宮市睦町の児童養護施設「きずな」に、同校生徒が考案したレシピで商品化したおせち10個を贈った。

おせちの販売は同社が企画した。生徒による考案、販売と同施設への寄贈は5年連続で5回目。

今回の商品名は「とちぎ



から「光り輝く君へ」夢おせち」。2段階で「松前漬け」や「れんこん柚子胡椒金平」など、38品が美しく盛り付けられている。

この日は同校を代表して2年加賀谷凛々さん(16)と同渡部海さん(17)が同施設を訪れ、子どもたちに笑顔でおせちを手渡した。2人は「新年を元気いっぱい祝えるようなおせちを作った」と声をそろえた。森田佳道施設長は「おせちを食べて健やかな気持ちで正月を迎えられると思う」と感謝した。

(上野貴朗)

子どもにおせちを手渡す渡部さん(中央右)と加賀谷さん(同左)＝30日午前、宇都宮市睦町